

2015 夏・ロゴゼミ研修旅行 3 日目の報告 (E 班)

8 月 17 日、日本を出発してから 3 日目の朝。クラコフのホテルをチェックアウト後、旧市街の観光をし、市内レストランで昼食。それから、バスでクラコフ空港に。40 分という短い飛行時間の後、ウィーンに到着。そのままバスで中央墓地にあるフランクルのお墓を訪ね、ホテルに到着。解散後は、部屋で身体を休める人あり、グループでウィーンの最初の夜を楽しむ人ありで、出発してから初めての別行動となりました。



朝 8 時 30 分、ホテルから歩いて出発。1978 年に世界遺産に登録された“クラコフ旧市街”を歩きながら観光し、ゴシック特有の尖塔を持つ“聖マリア教会”に到着。中に入ってみると息を呑むほどに高く大きく美しい。「からだがあったかくなった」「キラキラが目飛び込む」など個人の体感はさまざま。「教会は、人間としての権威や主権の道具でもあり、貧しい人々の救いでもあった」という説明に気持ちが動く。

聖マリア教会の前にある“中央広場”は 1257 年に建築され、一辺 200m の正方形。中世からそのまま残っている広場としてはヨーロッパ最大。広場の正面には 13 世紀にゴシック調に建てられた“織物会館”が左右に 100m 続き、周囲を旧市役所、教会などが囲んでいる。ゴシック調で建築された建物はその後、ルネッサンス調の建物部が、そして 20 世紀にはアーケード部が加えられ、現在は 2 階が美術館、1 階が売店になっており、織物ではなく“おみやげ会館”の機能を果たしている。広場の真ん中にはリトアニア大国のロマン派詩人だった“アダム・ミツキェヴィチ”の像が立つ。現在は、ポーランド人だけでなく、リトアニア人やベルルーシ人達皆が「わが国の代表詩人じゃぞ」と豪語しているというところが、この地域の歴史を物語っているように感じられた。



中央広場から大学地区に移動。14 世紀の南ヨーロッパでは、ペストを流行させたという理由でユダヤ人が迫害されるなか、当時ペストのなかったポーランドへ多くのユダヤ人が移住。そして、この大学地区にユダヤ人通りが出来た。“クラコフ (貿易の街)”の名前もユダヤ人が名付けたと言うほど、多くのユダヤ人が居住していたが、当時 7 万人いたユダヤ人はナチによる迫害でたった 100 人になり、現在は“聖マリア通り”と呼ばれる。17 世紀初頭にワルシャワに遷都するまではクラコフを首都としていたポーランド王国は他の国と異なり、改宗教が許されていたので宗教に自由さがあり、多くの人が集まった。「現在のポーランドの若者はユダヤ人を見たことが無い」という程にまでユダヤ人の数は減っているが、彼らの教会は大切に今も保持され管理されている。クラコフの街を歩いてみて、触れてみて、ポーランドの優しさ・ゆるやかさを感じた。



そして、1364 年に当時の王、カジミェシュ 3 世ヴィエルキによってポーランドで初めて創られた大学、“ヤギェウォ大学 (旧クラコフ大学)”へ。15 世紀建造の Collegium Maius の中庭を見学し、裏の方に歩いていくと、この大学に 1491 年に入学したコペルニクスの若き日の銅像に遭遇。彼のあまりの“イケメン”ぶりにしばしのざわめき。

次の訪問は、ガリチア博物館。この地に 800 年前から住んでいるユダヤ人文化を守ろうと写真家のクリス・シュヴァルツが

発案し、2004 年に収容所があった場所に作られた写真博物館。比較的小さな部屋の中に展示されている、おそらく数多くの中から厳選されたであろう数十枚の写真から、ユダヤ人の文化・生活・歴史を感じ、また前日訪問したアウシュビッツで学び感じたことを再度体験する時間を持った。

クラコフ旧市街を満喫した後の昼食は、土の香りと味がするビーツの真っ赤なスープに、野菜がたっぷり添えられた大きなロールキャベツのプレート、大盛り三種のアイスクリーム。「また食べ過ぎた！」と反省しながら、豪雨の後のデコボコ道路を歩いてクラコフ空港に到着。雨の中、各自スーツケースを持って工事中の空港内を移動し、やっとターミナルに着いたと思ったら大混雑。無事に旅立てて、ほんとうにホッとした機中でした。



展示されていたガス室の写真の下にあった母子の会話：

“Mummy, when they kill us, will it hurt?”

“No, my dearest, it will not hurt. It will only take a minute.”



ウィーン空港からホテルへ向かう途中、フランクルの眠るユダヤ人墓地へ。門を入るとすぐ左に折れて、右手にある、石がたくさん置かれているお墓に到着。モーツアルトやベートーベンなど、世界的に有名な人がたくさん眠る墓地でもある。多くの墓は関西弁で言うところの“草引き”(草むしり)がされていないが、フランクルの墓には多くの参拝者があることが窺われた。日本から思いを込めて持参した石を一人一人がさまざまな気持ちでお墓に供え、合掌。ちょっと不思議なガイドさんに、“斜め”の集合写真を撮ってもらってから、ホテルに。

夜 7 時半というのに、まだまだ空が明るいなか、ホテルで身体を休めることにしたメンバー以外の E 班と D 班と一緒に夜の街に繰り出した。まず、ホテルの前にある Pilgramgasse という地下鉄駅で 48 時間乗り放題の交通チケットを €13.30 で購入。街中を歩きながらナッシュマルクトの食品市場を目指す。スグストアやスーパーマーケットに気持ちが引き寄せられ、滑り込みのショッピングを暫し楽しむ。約 15 分、地下鉄 1 駅分をそぞろ歩きしながら、食品市場辺りに到着。テーブルと椅子が店の外に並んでいる“Bar”のようなところで多くの人がワインやビールを飲みながら食事・つまみを楽しんでいる店が続くなか、海鮮系レストラン NAUTILUS に入ることに。少し疲れていた胃袋に久々のイカやエビ、ホタテにムール貝、シーフードパスタにリゾット、そしてもちろんビールにワイン、幸せな気分が一日終了！

夜 7 時半というのに、まだまだ空が明るいなか、ホテルで身体を休めることにしたメンバー以外の E 班と D 班と一緒に夜の街に繰り出した。まず、ホテルの前にある Pilgramgasse という地下鉄駅で 48 時間乗り放題の交通チケットを €13.30 で購入。

街中を歩きながらナッシュマルクトの食品市場を目指す。スグストアやスーパーマーケットに気持ちが引き寄せられ、滑り込みのショッピングを暫し楽しむ。約 15 分、地下鉄 1 駅分をそぞろ歩きしながら、食品市場



それから、途中でドラ

閉店寸前に到着。テーブルと椅子が店の外に並んでいる“Bar”のようなところで多くの人がワインやビールを飲みながら食事・つまみを楽しんでいる店が続くなか、海鮮系レストラン NAUTILUS に入ることに。少し疲れていた胃袋に久々のイカやエビ、ホタテにムール貝、シーフードパスタにリゾット、そしてもちろんビールにワイン、幸せな気分が一日終了！

